

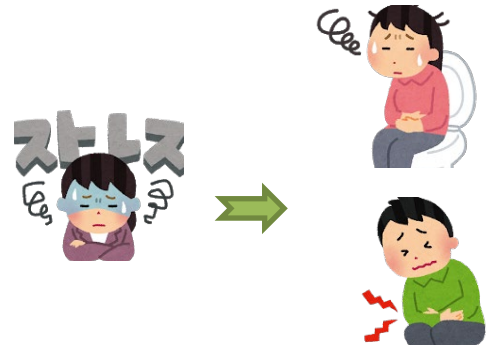


薬の伝言板 過敏性腸症候群(IBS)

No. 2021年10月
丸子中央病院 薬局

過敏性腸症候群とは

過敏性腸症候群（IBS）とは、器質的な異常が無いにもかかわらず、腹痛あるいは腹部不快感とそれに関連する便通異常が慢性もしくは再発性に持続する疾患で、ストレスや腸内細菌による炎症、遺伝的要素が原因として引き起こされる腸の機能的な病気です。腸管の運動が不安定になったり知覚過敏の状態になる事で、下痢や便秘などの排便障害や腹痛が症状として現れます。

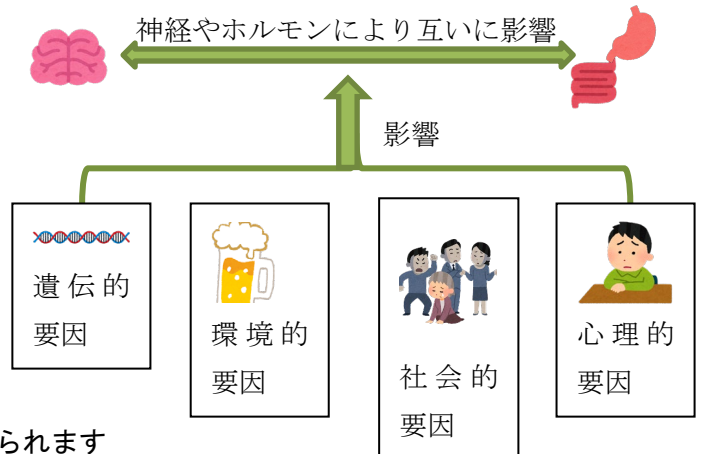


器質的な異常が無いが下痢や腹痛などの症状が現れる

過敏性腸症候群

過敏性腸症候群の原因

原因や発症機序はまだ十分に解明されていないのですが、可能性として考えられるものに下部消化管の運動異常、消化管の知覚過敏、ストレスに代表される心理社会的因子があります。中枢神経と消化管との密接な関係は「脳腸相関」と呼ばれ重要な因子と考えられています。



心理社会的因子であるストレスによる症状増悪がみられます

◎午前の通勤通学時

◎個人の自由行動が制限される状態（公共交通機関、高速道路、渋滞、航空機、会議など）

過敏性腸症候群の病型



- ① 便秘型：硬便・コロコロ便が多い 女性に多い
- ② 下痢型：泥状便・水様便が多い 男性に多い
- ③ 混合型：硬便・コロコロ便と泥状便・水様便の両方を繰り返す
- ④ 分類不能型：上記に当てはまらない

過敏性腸症候群の治療

① 初期治療

下痢型、便秘型問わず生活習慣の改善が基本。その上で薬物療法としては消化管機能調節薬、整腸剤などが使われます

分類		薬	機序
消化管運動機能改善薬	5-HT4 受容体作動薬	モサプリド (ガスモチン)	神経叢に存在する 5-HT4 受容体作用し、消化管運動を促進します
	コリンエステラーゼ阻害薬	アコチアミド (アコチアミド)	コリンエステラーゼ阻害作用により、消化管運動を促進します
	オピオイド受容体作動薬	トリメブテン (セキソ)	消化管への直接作用と、オピオイド受容体を介し、腸管運動を調節します
整腸剤		乳酸菌製剤など	腸内環境を改善します
高分子重合体		ポリカルポフィルカルシウム (ポリアル)	腸管内で高い吸水性と保水性を有する状態に変化し、便の水分バランスを調節します

② 優勢症状に合わせた対症療法

初期治療で改善が乏しい場合、優勢症状に応じた薬剤を追加します。下痢には止瀉薬を、腹痛には抗コリン剤、便秘には下剤といった具合です

分類	薬	機序
下痢型	ラモセトロン (イリウ)	5-HT3 受容体を遮断する事で、下痢と腹痛を改善します
	ロペラミド (ロペミン)	オピオイド受容体に作用し、消化管運動を抑制します
便秘型	ルビプロストン (アミティーザ)	腸管内の水分を増加させます
	大腸刺激性下剤 (プルゼニド・ネバロンなど)	大腸を刺激して消化管運動を促進します
	酸化マグネシウム	腸管内の水分を増加させます
腹痛型	メペンゾラート (トランコロン) チキジウム (チキソ) ブチルスコポラミン (ブスコパン)	腸管の M3 受容体遮断により消化管運動を抑制します

③ 追加される治療

上記に加え漢方薬や抗うつ剤・抗不安剤などが用いられる事があります



過敏性腸症候群は機能性疾患であり、その生命予後は良好です。しかし経過は長期に及び、その間に良くなったり悪くなったりする場合があります。医療機関にかからなくても管理可能な軽症もあれば治療に難渋するケースも少なくありません。気になる症状があればご相談ください

文責 薬局 丸山 酒井